

特別活動の指導法

—合意形成・意思決定のための話し合い活動—

今 野 紀 子*

Method of teaching of extra-curricular activity

—Discussion activities for consensus formation and decision making—

KONNO Noriko*

キーワード：特別活動、指導法、合意形成、意思決定、話し合い活動

1. はじめに

本学では、教職に関する科目として特別活動の指導法を内容とする「特別活動論」を設置している。平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」を踏まえ、平成 29 年に新学習指導要領が告示された。新しい小学校・中学校学習指導要領の特別活動の目標は、『集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。』となった^{1,2)}。

今回の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）の推進が求められている³⁾。児童生徒への指導のためには、教員養成教育において、学生自身が合意形成・意思決定のための話し合い活動の過程を経験し、学ぶ必要がある。本研究ノートでは、特別活動の指導法における合意形成・意思決定のための話し合いの在り方について、教職課程履修学生の実践を通して検討する。

2. 特別活動の指導法

平成 29 年 6 月教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会（第 5 回）において、教職課程コアカリキュラム（案）が作成され、新たな指針が示された⁴⁾。特別活動の指導法の内容は、(1) 特別活動の意義、目標及び内容、(2) 特別活動の指導法に分化された。特に (2) 特別活動の指導法では、その到達目標の一つが『合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。』となった。

本稿では、合意形成・意思決定のための話し合い活動を、特別活動の目標にしたがって、「課題の発見や解決を行うための話し合い活動であり、よりよい集団や学校生活を目指すものであること。話し合い活動

* システムデザイン工学部人間科学系列教授 Professor, Department of Humanities, Social and Health Sciences, School of System Design and Technology

を通して、合意形成を図ったり、意思決定したりできること」とした。

3. 合意形成・意思決定のための話し合い活動

3.1 方法

対象者：2017年8月に教職課程履修学生（17名）を対象に実施した。

実施内容：合意形成・意思決定のための話し合い活動として、1)ブレインストーミング、2)コンセンサス演習を行なった。1グループは6名程度とした。

1)ブレインストーミングでは、様々なアイデアを出し合いながら問題解決をしていく話し合い活動を目的とし、積極的に話し合い活動に参加・協力する姿勢や態度の育成を図ることを企図した。ブレインストーミングのルールは、①メンバーの意見・考え方を批判・拒否しないこと、②自由奔放なアイデアを歓迎すること、③できるだけ多くのアイデアを出すこと、④他者のアイデアを修正・改善・発展・結合し、アイデアの改善案や組み合わせなども歓迎すること、とした。ブレインストーミングの課題は、「落ち込んでいる生徒への励ましの一言を考える」という内容である。落ち込んでいる理由や背景等は各自自由に設定し、一言は短くてもかまわない。できるだけ多くのアイデアを出させるために、制限時間内（30分程度）に各グループ50以上という最低ラインを設けた。

2)コンセンサス演習では、グループの話し合い活動を通して、合意形成を図ったり、意思決定することを目的とした。コンセンサス演習のルールは、①メンバー、ひとりひとりの考え・判断・価値観等を確認した上で、意見のすりあわせを行うこと、②多数決や平均点といった方法で決めることは絶対にしないこと、③十分に自分の考えを述べ自己主張するとともに、他者の意見も十分に聴くこと、④時間内にグループ決定ができなくともかまわないが、できるだけ合意形成できるように努力すること、とした。コンセンサスの課題は、「クラス対抗スポーツ大会のメンバーとして7名の登場人物の中から2名を選ぶ」という内容である。あらかじめ各人物の簡単なプロフィールが書かれた資料を読んだ上で

各自2名選択し、その後、グループでコンセンサスを得ながら集団の決定を行う流れとした。話し合い時間は40分程度とした。

評価指標：1)ブレインストーミングでは、①満足度（Q：ブレインストーミングを終えての満足度はどの程度ですか？）、②協力度（Q：グループの協力度はどの程度でしたか？）、③参加度（Q：自分の参加度はどの程度でしたか？）について5段階リッカート尺度（1.ほとんどできない⇔5.十分できた）で対象者が自己評価した。加えて④ブレインストーミングを通しての感想、⑤自分自身への気づき、を自由記述形式で回答させた。

2)コンセンサス演習では、①自己表現度（Q：自分の意見をどの程度表現できましたか？）、②他者理解度（Q：他者の意見をどの程度理解できましたか？）、③メンバーへの配慮度（Q：グループのメンバーへのお互いの配慮はどの程度できましたか？）について5段階リッカート尺度（1.ほとんどできない⇔5.十分できた）で対象者が自己評価した。加えて④コンセンサス演習を通しての感想、⑤自分自身への気づき、⑥今後の抱負（今度やるとしたらどのように取り組みたいか）を自由記述形式で回答させた。

3.2 結果

1. ブレインストーミング

ブレインストーミングの結果を図1に示す。満足度では、どちらともいえないが5.9%、概ね満足できたが17.6%、十分に満足できたが76.5%だった。協力度は、概ね協力できたが29.4%、十分に協力できたが70.6%だった。

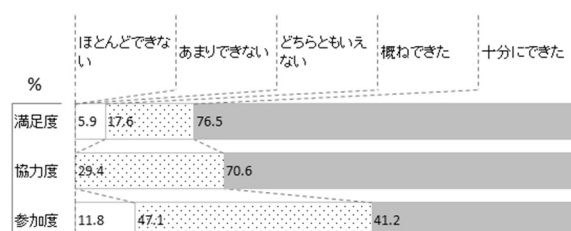


図1 ブレインストーミングの結果

参加度では、どちらともいえないが11.8%、概ね参加できたが47.1%、十分に参加できたが

41.2%だった。

ブレインストーミングを通しての感想・自分自身への気づきについて、主な意見を以下に示す。

【ブレインストーミングを通しての感想】

- ・いろいろなアイデアが出てくるので、じっと物事を考えているときよりもこれだという意見が出やすかった。
- ・考えについての幅が広がった。
- ・一人が出した意見を皆でブラッシュアップしてよい意見を作り出すことができたのがよかった。
- ・それぞれのメンバーが考えている意見が、それぞれ異なっているにもかかわらずよいと感じることができた。
- ・メンバーの意見を聴いている自分も元気が出た。
- ・「意見や考えに批判をしない」というルールなので、自分がどのような意見を言っても受け入れてもらえる安心感があつた。
- ・自分の取るに足らない意見でも、次々に受け入れてもらいよかった。ブレインストーミングは楽しいものだと感じた。
- ・自分の意見に共感してもらえたとき安心感が得られた。
- ・「それいいね」とか相槌を打ってもらえると、自信がすごくついた気がした。

【自分自身への気づき】

- ・自分にはボキャブラリーがないと思っていたが、意外とあることがわかり驚いた。
- ・自分の中に他者の意見を取り込んで、違った視点を持てたように感じた。
- ・つい否定的な発言をしてしまうことがあった。今後、意識していけばよい方向になると思う。
- ・自分とは異なる意見を否定的に捉えるのではなく、尊重していくことが大切であると思う。
- ・どのような意見でも否定されないルールのお陰で、普段はあまり意見を出せない自分でも意見を出せた。
- ・自分の意見を他者に認めてもらえるのは、嬉しいと感じた。いつもならば話すことをやめてしまうようなことでも、話すことができた。
- ・グループ全体で協力し合っている気がした。

2. コンセンサス演習

コンセンサス演習の結果を図2に示す。自己表現度では、概ね表現できたが12.5%、十分に表現で

きたが87.5%だった。他者理解度は、どちらともいえないが6.3%、概ね理解できたが37.5%、十分に理解できたが56.3%だった。メンバーへの配慮度では、どちらともいえないが6.3%、概ね配慮できたが37.5%、十分に配慮できたが56.3%だった。

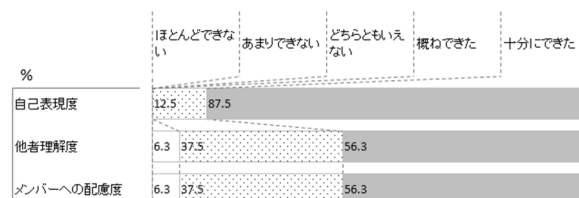


図2 コンセンサス演習の結果

コンセンサス演習を通しての感想・自分自身への気づき・今後の抱負について、主な意見を以下に示す。

【コンセンサス演習を通しての感想】

- ・メンバーが適当に意見を合わせてくるのではなく、「こうも考えられるのではないかな」というように、はっきりと述べてくれたことで、より多角的に考えていくことができた。
- ・意見をぶつけ合いながらも、メンバーの意見をよく聴き、合意することができた。
- ・他のメンバーを納得させたり、同意を得られることが嬉しかった。
- ・多数決で決められないので、意見の一致は時間がかかり難しかった。互いに配慮することが大切だと感じた。
- ・自分が話すことを考えると、他者が話しやすい雰囲気を作ってあげることが大切である。
- ・相手に体を向けて発表しなければなかなか伝わらないと改めて感じた。

【自分自身への気づき】

- ・他者の意見もしっかりと聴くことができ、なぜそのように考えたのかなどを理解することができた。
- ・はじめは自分の意見を押し通そうという気持ちが強かったが、相手の意見を注意深く聴き、噛み砕くことで受け入れられるようになった。
- ・自分の意見を述べる前に、整理しておかないと相手にうまく伝わらないことがわかった。

- ・他のメンバーが話を振ってくれたので、自分の意見が言えた。グループ活動はよいと感じた。

【今後の抱負】

- ・意見の言い合いになる場面が多々あったので、もう少し落ち着きを持ちたい。
- ・異なる意見が出たときに、もっと自分の意見を伝えようと思った。
- ・相手の目を見て、抑揚をつけて、相手のことを考えて伝えようと思った。
- ・もっと積極的に、また聴くことにも比重をおいて、相手に気持ちや意見が伝わるように頑張りたい。
- ・自分の意見をしっかりと出しつつも、相手を尊重し、受け入れ、自分の意見とのすり合わせを柔軟にできたと思う。
- ・自分と相手の意見との妥協点を見つけ出し、新たな意見を創り出せるようになっていきたい。

4. 教員養成教育での課題

特別活動の指導法における合意形成・意思決定のための話し合いの在り方について、教職課程履修学生を対象とした、ブレインストーミングとコンセンサス演習の実践概要を報告した。ブレインストーミングでは、メンバーの意見・考え方を批判・拒否しないことをルールに、多くのアイデアを出し合いながら問題を解決する話し合い活動を行なった。満足度、協力度、参加度ともに、概ねできた・十分にできたと評価した者が 80%を超えた。メンバーの意見が相互刺激されることで、考えの幅が広がり、多様なアイデアが出やすく、大変有用であったとの意見が複数あったが、それ以上に、どのような意見でも受け入れてくれる安心感から、意見が言いやすいことを実感した学生が多かった。また、ブレインストーミングを通して、日頃の自他への否定的な言動を振り返る学生もあり、肯定的尊重の重要性を再確認する場面もあった。この話し合い活動により、互いのよさを認め合い、よりよい人間関係形成にも役立つことが示唆された。

コンセンサス演習では、メンバー、ひとりひとりの考え・判断・価値観等を確認した上で、意見のす

りあわせを行い、合意形成・意思決定する話し合い活動を行なった。自己表現度、他者理解度、メンバーへの配慮度ともに、概ねできた・十分にできたと評価した者が 90%を超えた。いままで多数決方式でしか集団で物事を決める経験をしていない学生が多かったため、時間がかかり、困難さを感じる面も見られたが、コンセンサスをとる作業を通して充実感や深い理解に繋がる経験が得られたようである。

今回、合意形成・意思決定のための話し合い活動の過程を実際に体験することで、生徒の視点での一定の学びができたと思われる。今後は教員の視点で、生徒に主体的に話し合い活動に取り組ませるような助言や適切な介入方法の選択など、ファシリテーターの役割に必要なスキルの修得が課題と思われる。

参考文献

- 1) 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領」、平成 29 年 10 月 12 日取得、
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf
- 2) 文部科学省 (2017)「中学校学習指導要領」、平成 29 年 10 月 12 日取得、
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf
- 3) 中央教育審議会 (2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」、平成 29 年 10 月 9 日取得、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
- 4) 文部科学省 教職過程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 (2017)「教職課程コアカリキュラム (案)」、平成 29 年 9 月 28 日取得、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/20/1387656_08.pdf
- 5) 萩中奈穂美、米田猛 (2016)「合意形成を図る話し合いの指導に関する実践的研究ー必要な能力を内包した教材開発とその活用を中心にー」、富山大学人間発達科学部紀要第 11 巻第 1 号、pp.39-55.